

書いてあります。これは2桁台でかなりいい数値になりましたが、実は昨年9月、10月に作業工具のメーカーの皆さんは15%くらい表立って値上げなさいました。その一部がここに入っているのかなという感触は致しますが、それは定かではありません。しかし、ここすう勢を見ておりますと作業工具の内需、搭載工具、一般物それから輸出、内需と輸出の両面でみますと、内需は大阪からの依頼OEM製品が増えているようですし、それから輸出の方も大阪のメーカーは採算性を考えてどうも輸出をけているきらいがあるという話を聞いております。そのけられた輸出は三条にきているという事で、ある日私は作業工具メーカーである某社へまいりましたら、実は昨日フィリピンから直接輸出をしてもらいたいという電話がはいったというふうな事があります。ですから内需も輸出も大阪の動きがそっくり三条にきている。輸出につきましては、大阪の方は価格を高めに取り決めていましたから、それが即三条の値段になるという事から、作業工具の業界では大変堅調感にプラスしているという状況が出てきています。輸出先の内容をみますとアメリカは39%の構成比になります。東南アジアは37%です。三番目にヨーロッパが11%になっております。これは12月の組合さんの数字を申し上げた訳ですが、1年半前は1位がアメリカで2位がヨーロッパ、3位が東南アジアであります。それが逆転して2位が東南アジアが更にアメリカをしのごうとしている状況であります。いずれ逆転して東南アジアが1位になる日も近いというのが各メーカー間のお話でもあります。かつては、輸出が良ければ内需が悪い。内需が良ければ輸出が悪いという、いずれか一方が良かった訳ですが、内需も良く輸出も良いという状況が出てきております。作業工具の生産拠点は日本から台湾に移って今は中国に移っている様であります。3年前の数値を調べてみますと、日本からアメリカへ輸出していた作業工具が4.4%減って現在は14.3%。これは構成比です。アメリカが世界から受け入れる作業工具に対する構成比が14.3%。台湾は3年前に比べて5.5%減りまして47.5%です。それから中国からアメリカへ輸出しているものが8.1%増えまして12.7%になっています。どんどん中国は急増加を示している状況です。次、プレス加工業に入ります。建設関係の堅調感については既に申し上げましたが、搬送機器も省力化の流れを追って好調に動いております。県外の大手某社であります。昨年3月に1030億円の業績を達成して来年度には2倍の2000億にすると頑張っておられるメーカーがございしますが、その協力工場という事で三条にある某メーカーにお伺いしましたら、昨年の秋に500坪の新工場をお建てになりました。そして両脇に更に500坪ずつの工場が建つ敷地がございします。お聞きしましたら、人さえ増えたら何時でも建てて対応したいというお気持ちだそうです。某社にまいりました。1、2月はシーズンオフで仕事をしない事になっていたのですが、今年は違います。とにかく毎月毎日9時まで残業を強いられる状況ですということです。何故そうなったのかという事ですが、とにかく受注の状況が大変堅調であります。このメーカーは内製主義をどんどん強化しまして、外注依存から内製主義に切り替えています。5年前には70%であった内製の割合が現在では90%になっている。金型部門を強化して投資もそれなりにやってきました。工場の中を見学させてもらいましたらプレスの部署、洗浄場の部署、溶接組立の部署、検品の部署、2階が出荷になっておりましてその部署、部署毎の間の天井空間を利用してコンベア方式にして、次の場所へ移動させ、コンテナ工事は一切使わない努力をしているそうで

加藤英男君 久しぶりに例会にでました。

梨本清一君 尊敬する友人高井茂さんの御講演に感謝して。

本間茂男君 選抜バンドコンサートの成功のために。

吉川吉彦君 4/9は全員出席の日です。おわずれなく。高井様の卓話楽しみです。

淵岡茂君 本日札幌にて展示会の為、欠席です。今夜は健康を考えてすすきのへは出かけません。その分をBOXへ。

笹原勝治君 高井さん三条北ロータリーへようこそ。加藤会員おひさしぶりです。

ロータリー財団：

内藤修君 次男小学校入学、三男幼稚園入園致す予定です。

卓話：「経済動向について」三信地域経済研究所 高井茂殿



只今は大変過分なご紹介を頂き恐縮であります。その上、ニコニコボックスには沢山私の名前を連ねてお入れ頂いたようで欠損を計上させた様で恐縮に存じます。只今ご紹介頂きました三条信用金庫はこの度、三信地域経済研究所ということで3月からスタート致しました。その前は、情報開発センターということでやっておりましたけれども、発展的解消をしてとにかく情報化時代ということから、この県央で研究所を作ろうという私ども三信90周年行事の1つという事でスタートしたわけであります。今後ともよろしくお願い申し上げます。皆様のお手元に差し上げましたのは、三条・燕地区の産業経済動向2月号と、それから新潟大学のトウツワイン先生の講演のメモをお届けしました。トウ先生の講演は3月20日に地場産でございまして、本も出されて「挑戦する三条燕」ということで、笹原さんの所からも店頭で売られておりますが、この概要の説明がありましたのを添付させて頂きました。トウ先生は輸出をしなさいと、輸出でどんどん情報を得て、企業の拡大を図って頂きたいというのが主旨のようであります。お買いになってからぜひお読み頂ければ私もワープロのような機械の時代なのに、敢えて便利でないもの右手で書いておりますが、読んで頂ければ幸いとおもいます。それでは早速、時間もありませんので経済動向に移らせて頂きます。表紙のところでございしますが主要指数が書いてございしますが、消費者総合物価指数の所を、右の欄を見て頂きたいとおもいます。新潟県対前年同月比3.7%、三条2.9%、燕が4.1%でございします。この指数の推移を見ますと12月までは3%そこそこの推移できましたが1月、2月に入って4という数字が出て来たわけであります。3月号にはこの数字はどんなふうに膨らむのかわかりませんが、今後の推移が見守られる所であります。次に、有効求人倍率（雇用失業情勢という欄ですが）を見ますと、2.82倍これは三条です。巻が3.20倍ということですが、県は平均1.97倍でもう2倍になろうとしておりますが、全国平均は1.47倍ですから、全国平均と比べますと三条・巻の職安のこの数値は倍になっているという状況であります。全国でもこの指数は十指に入るのではないかとということ、職安の所長さんに申し上げた事もございします。それから、着工新築住宅指数というところもございしますが、三条54戸、燕93戸と書いてありますが、過去一年間トータルでみますと対前年で三条は107.1%になります。ですから7.1%増という数値になります。同じく燕も過去一年のトータルでは200.5%ですから増加率では100.5%増という

数値になります。県全体では対前年で111%でございますので、11%増という数値が出てきます。その下の下の欄ですが、市内全金融期間預貨動向がございますが、三条市は3400億円の預金、対前年比7.6%アップしております。これは増加率です。貸出しは7.0%。燕の預金は2034億円の預金で6.5%増。貸出しが7.9%増という状況で、一応経済のバロメーターになろうということでここに載せてございます。それから一番下の欄でございますが、取引停止件数、これは県内が16、対前年と見て下さい。前年同月14件、三条は1件、前年はゼロ。燕は今回はゼロ、前年ゼロという数値で推移しました。3月号には数件出るかも知れません。今まではとにかく三条・燕ともゼロ、1のいずれかの数値が計上されてきた状況でありますので、経済の動向としては大変堅調に推移して来たということが言えると思います。次にページをめくって頂きまして、1ページには私共地域経済研究所の事業内容を書いておりますので後程、目を通して頂ければ幸いです。2月の概況に移ります。2ページであります。過去4年続いてきました三条・燕地区の好況感を支えてきた経済要因の走りは、私ずっと見てますと建設業が先であったと言うことであります。三条にとって好況感をいち早く支えてきたもの、これが建設業であり、全国の建設、ビル、ホテル、レストラン、マンション等々長期に続いてまいりました。おかげ様で当地三条・燕の建設関連商品、例えば建設金具、建築金物、架設工事棒、システムキッチン等々が順調に推移してきております。3行目に自動車関連部品に一部減退があるかという説明をしておきましたが、当地のメーカーさんにお聞きしますと湾岸戦争が始まった直後、すぐに1月大手の方から減産指示があったそうです。日産、トヨタ、ホンダ等々の大手でございますが、それも輸出関連の減産指示ということであります。内需はどうかと思って他の方へ手をまわしてお聞きしましたら、三菱、スズキ等のセカンドクラスは大変内需が好調でございまして、遅れ遅れで納めているという状況で、私共の方も実は減産指示が欲しいんですというくどきを聞きました。これは搭載工具のメーカーさんのお話しでございます。そんなことで私は敢えて自動車関連部品については一部減退と、一部という言葉は添えたのはそういう意味でございます。以下、建設業界の活況で当地の建設関連商品は堅調感を持続。機械、OA機器、家電、搬送機器等の関連需要は引き続き堅調、関連の金型製造業、プレス業、プラスチック製造業は堅調感を持続、包丁、ハサミ、ハンマーの工具は安定的。ホームセンター向け商品は良好。春需に向けてアウトドア、レジャー関連商品が順調、総じて前年実績をこえるという様に三条の概要をまとめておきました。ページをめくりまして5ページにはいります。この小冊子では、13業種をあげて全店、三条・燕、栄、下田等々三条地区、燕地区、吉田支店も入りますが、支店にお願いしまして定められた事業所にアンケートを書いていたいております。その数値を平均トータル致しまして、実はここに載っている表の内容が作られているわけでありまして。金物卸に入ります。ここでは、ある金物屋さんに私は訪問致しましてお聞きしました。ムード的に陰りが出て来ておりますけれども実際はどうなんですかと問いかけましたら、「商品仕入れの値段の値上げについては一通りあがりました。湾岸戦争もおわりました。しかも仕事はダウンする事なく動いております。私のお客様で優良取引先がございますが、その取引先は、対前年4〜5割以上の業績をあげていらっしゃいます。取り扱い品種の幅も広げ、積極的に取り組んでおられます。仕入れ商品の値段が上が

りましたからよろしくと申しあげますと、鷹揚に受けて下さいます。その替わりに売れる商品を斡旋して下さいということで、商品が生命だという事をおっしゃるそうです。一方、反対に優良でないという語弊がありますが、そうでないお客様はとにかく値引き出来ないか、値引き一本槍の金物屋さんもあるそうですが、ここは全く伸びておりません。というよりも、前年より実績が下がっているのではないのでしょうか」というふうな大変抽象的なお話を頂きました。さらに金物屋さんでございますが、人手不足の時代なものですから、そのために関連した商品や機械や物が動いている面があります。当社も実はリフトを買いまして、人手間をどう省力化できるかということでもがしかの金を使うという時代に入りました。その方の話ですが全国に新工場が各地にどんどん造られているという事から電動式のチェーンブロックが間に合わないそうです。只今申し込んでも3カ月は待たされるというふうな事で、これも人手不足の姿が現れている現象だというふうな事をその金物屋さんがおっしゃっていられました。実は一挙に年間10日もふえた休日増、おかげでレジャー関係が忙しく、アウトドア、レジャー関連商品の堅調感を訴えられる所もございます。登山や山野のキャンプ、釣り等という商品が動いております。北海道へ某社がわざわざお出掛けになりまして2週間程社員と滞在してカタログを作られたというところがございます。ページの見出しには必ずイングリッシュでそのページの標題を説明されておられます。三条にしては本当に先進的に努力のあとが見られる訳ですが、そこに登場する人たりは皆、社員の人達がグラビアの中に顔を出しているわけです。自分がこれに載っているという誇りがカタログ紙を通して全国に配られるという姿をそこにうたっているわけですが、私はこれからの事業所は本当に社員一人ひとりの個性と言いますか、人格というものを引き出すような姿で継続してゆかれるものをこの一見で見た訳ですが、大変関心致しました。カラーの撮り具合といい、レイアウトといい、本当に見事であります。それから話は飛びますが、別な所での情報でございますが、ファックスで三条には同時通報がなされるという事で見積が一挙に各社に来る訳であります。その対応としては値段の安い高いは問題になるでしょうけれども、値段が安いからといってしなものが半月も待たされるようでは、お客様は相手になってくれないという事情が出て来ているようであります。そういうことで在庫出来ない商社は敬遠されるというふうなことのようです。それからまた、ある金物屋さんにまいりました。皆さんがお使いになっている商品の中で地元の商品はどのくらい占めますでしょうか。「そうですね、よくいって35%でしょうか。あとは他産地の商品65%でしょうか」というふうな事をおっしゃいました。この三条に、大阪の同じ業者の方が、力ある大手が、出店をしております、その営業所はどのくらいあるのですかと聞きましたら、25社はあるでしょうと。越後ジャーナルの元旦号、三条の法人番付表を見られておわかりでしょうが、あれは214社載っております、その中でその金物屋さんがおっしゃるには金物卸が19社載っています。ところが先程申し上げました大阪を主力にした出店の商社が25社あるわけですが、その25社のうちここに載るとしたら何社載るんですかと質問致しましたら、20社載るという事です。ですから先程19社と申し上げましたが、同数を超えた事業所が激戦の旗印の元に毎日戦われているという状況を確認出来た訳であります。次は作業工具へ移りたいと思います。同じ5ページですが、ここを見ますと前年同月比売上平均12%と